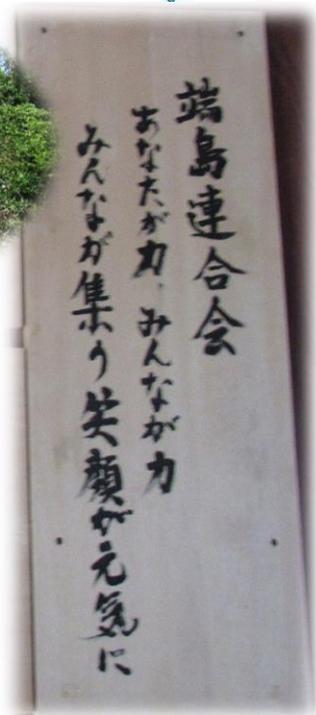




7月

集落支援だより vol. 42



〈写真掲載許可済み〉

今年のゴールデンウィークも二日間にわたり端島の一斉清掃が行われました。

端島出身者を中心としたグループ「端島連合会」と住民によって、端島の学校グラウンドや歌の散歩道・農道を中心とした清掃活動が実施されました。

きっかけは10年以上前に、端島関係の有志で「お墓まで行く道ぐらいはできる者だけで何とかしよおやー」との話になり、その思いが島への奉仕活動につながったようです。

しかしながら、その後も更なる島の高齢化や人口減少に伴い、当時、Uターンで島に戻ってきていた亀田さんから「島のために助けてもらえんじゃろおか〜」との要請を受け、現会長である笹村さんらが中心となり、市の補助事業「離島地域環境美化交流促進事業」を活用し、こうして端島での環境美化活動が毎年行われるようになりました。

今では多くの島出身者へ支援の呼びかけがされており「端島連合会」は総勢約60名で構成されているとのこと。

島の現自治会長でもある亀田さんからは、毎年こうしてみんなが帰省し、島のために協働しながら活動してくれている姿は島の「地域力」でもあり、また清掃活動を通じて地元住民を含めた島の出身者らとの交流が図れていることをたいへん喜んでおられました。

柱島の歴史紹介・続島（つづきしま）



〈浦庄の浜・洲鼻から見た続島〉



〈金蔵山・三角点から見た続島〉

柱島・浦庄の浜/洲鼻（すばな）の目前には続島（つづきしま）が見えます。

この島は1943年（昭和18年）6月、柱島沖、南西約2キロ海域で戦艦陸奥が謎の爆発を起こし沈没後、島に漂着した水兵さんのご遺体を、当時の柱島住民によって茶毘に付した島（無人島）でもあります。

しかしながら戦後、続島には遺骨が取り残され、当時こうした事態に心を痛めた柱島住民がその遺骨を「洲鼻」に移送し、遺族と関係者らと共に墓をつくって手厚く犠牲者の霊を祀られたとのこと。それが写真にあるような石づくりで立派な「戦艦陸奥英霊之墓」です。

そして来月で戦後77回目の終戦記念日を迎えます。私は柱島での歴史を改めて知り、かつて私たちの国でもそういった時代があったことや、柱島住民によって亡くなられた水兵さんたちへのご配慮があったことなど、これからもそうした歴史を常に意識していくことの大切さを深く感じました。

